

Report

能登半島派遣報告

会場 のと里山空港
能登事業者支援センター

応援経営支援員

当所支援グループ 鬼頭 貴士



5月27～29日に、「能登半島地震」復興支援の応援派遣で「のと里山空港」に経営相談に行っていました。

相談者は、被害が大きかった輪島市や珠洲市からが多く、業種は宿泊業、建設業、製造業などに加えて漁業や農業、伝統産業の職人など多岐にわたっていました。「船の修理には2億円以上かかる。補助金を活用し新艇を買った方が安いし早い」や「近隣家屋が倒壊し当社建物にもたれかかっているため、撤去されるまでは補助金の申請もできない」といった、建物の倒壊、設備や船舶の損壊などに関連する相談が多数でした。

解体が必要な家屋は2万数千棟あると言われる中で、解体・撤去が完了した件数はわずか400件弱。派遣中の5月28日に「所有者全員の同意がなくても公費解体が可能になる」と報道があり、復興が進むことが期待される少し明るい話題がありました。しかし、現状は資材の高騰や建設業者の不足によりまだまだ困難な状況が続くと思われます。

震災から数カ月が経過している今でも、初めて相談に来られる方が多数見えました。ITリテラシーは、年齢や業種によってまちまちなため、支援を必要としている人達に迅速に情報を届けるために、商工会議所・商工会の役割は大きいと感じました。

私が参加した応援派遣は数日という短い期間でしたが、被災者の方々は、以前の生活に戻るまでは何年かかるか分からず不安な毎日を過ごしています。震災は、岐阜においても南海トラフが危惧されているように、日本中どこでも起こる可能性があります。復興には、今回の応援派遣の様に日本全体で寄り添って支えていく体制の構築と、一過性にならないよう継続した支援が不可欠だと感じました。